

素敵な駅をつくる産学協同 『八幡前駅プロジェクト』の様子が新聞で紹介されました！

京都新聞 2013年12月19日付 朝刊に掲載

叡電・八幡前駅 X マス色に 同志社中生が装飾

京都市左京区の叡山電車八幡前駅で18日、同駅に近い同志社中の生徒5人が、特製の人形などを置き、赤いモ

ールなどを取り付け、クリスマス色の装飾をした。同中の生徒たちが、自分たちの手で明るい

駅にしようと、1月に取り組みを始め、手すりの塗り替えなどを行っている。

この日は上下線のホームで、手書きの「イエスの誕生」や「クリスマススクイズ」などのポストカード6枚を貼った。サンタクロースの帽子をかぶった、紙粘土製の新島襄や八重の像などを並べた。ホームには叡山電車の職員が取りつけた白と青のイルミネーションも点灯されており、クリスマスモードが高まった。駅を利用する3年の馬話真実さんは「駅名にちなんでコストを8万円に抑え、温かい駅を目指して取り組んだ。人がたくさん使うようになれば」と話している。(浅井佳穂)



クリスマス飾り付けをする同志社中の生徒ら(京都市左京区・八幡前駅)

つたが、2006年から市民の役高も載せ台

「八幡前駅プロジェクト」は、2013年に始まった同志社中学校の有志生徒と叡山電車による産学協同の「素敵な駅」をつくる取り組みです。地下鉄開通後、八幡前駅の通学利用者は中・高全体の約1割ほどまでに激減し、また周辺地域の住民も少子高齢化が進み、過去の活気を失っている八幡前駅。「町の人にとっても、同志社にとっても大切な八幡前駅を、もう一度素敵な駅にしたい。」その思いで、これまでに「手すりの塗装」「壁新聞の季刊発行」などの提案・取り組みを行ってきました。

“寂しい”“暗い”といった駅が抱える課題を、中学生が演出した企画で“賑わい”や“明るさ”に変えたいと願っています。本校生徒のみならず、周辺地域住民の方々や観光客にとっても駅への愛着を持っていただけると期待しています。

PBL(Problem Based Learning)やアントレプレナーシップ教育も注目される今、京都の街に根差した本プロジェクトは、中学生に課題解決能力や企画提案力、チームワークやリーダーシップを身につける学びの場となっています。